

平成30年度 山科区民まちづくり会議
グループ別討議まとめ

- I 環境
- II まちの魅力・観光
- III 交通・都市基盤
- IV 保健・福祉・子育て支援
- V 地域のつながり

上記、5つの基本施策についてグループ別討議を行い、以下のとおり様々な課題に対し、提案・改善策が出されるなど活発な議論が行われました。

【I 環境を守り継ぐ】

<課題について>

- うるおい・自然を大切にする。
- ごみを減らし、まちをきれいにする。
- 地球環境問題対策のため行動する。
- 環境について学ぶ

<提案・改善策について>

- 落ち葉の堆肥化実施や街路樹サポーターへの広報強化を図ってはどうか。「フラワーロード」事業で街路樹の下に花苗を植栽してはどうか。公園一斉清掃日を設定してはどうか。
- 資源ごみ収集日の広報強化を図ることや家庭の雑がみ等の回収頻度を上げてはどうか。企業に対して雑がみ回収の推進強化策を図ってはどうか。資源ごみ回収ボックスの設置数を増加してはどうか。
- 自転車駐輪場を整備してはどうか。公共交通機関利用者増に向けて便数・路線の見直し策を検討してはどうか。カーシェアの推進補助を図り、駐車場を整備してはどうか。地球環境問題対策のため、太陽光発電のPR・助成制度の強化策を図ってはどうか。
- 子どもから大人へ環境について教える機会を作ってはどうか。HPで環境・ごみ回収の情報を整理しQ&Aを作成するとともに、SNSを活用して発信してはどうか。子どもと保護者が一緒に環境について学ぶ機会を作ってはどうか。

【Ⅱ まちの魅力・観光を磨く】

<課題について>

- 区の魅力・観光を育てる。

道が狭く，観光バスが入って来られない。地下鉄以外の公共移動手段が京阪バスしかない。坂が多く電動自転車がないと辛い。電動自転車を借りられる場所もない。観光客は市内中心部や宇治，醍醐等に流れがちである。山科には集客できるレストランや山科にちなんだ料理がない。

- 伝統産業・農業を守る。

後継者不足。地域を引っ張る企業や起業家がない。ブドウやナスなどの産品があるが有名ではない。

- 文化・学びを豊かにする。

- 遊び・スポーツを楽しむする。

山科の歴史や郷土の文化等について，興味を持っているのは年配の方が多い。

山科の歴史や郷土の文化等について，資料の保存，展示等のスペースが足りない。山科検定を実施しているが，若い世代の受験率が低い。

<提案・改善策について>

- 観光地とそのアクセス方法を両面からPRしてはどうか。電動のレンタサイクルの検討をおこなってはどうか。山科を起点とした近隣観光地との総合的な観光プランを提案してはどうか。山科区民も含めて楽しめるイベントを開催してはどうか。
- 工場・工房見学等を通じ，企業や伝統産業従事者による教育普及活動の充実を行う。特産品であるブドウやナスの宣伝活動を学生等と連携したり，農家による収穫体験や貸し農園を通じた農業指導等を推進したりしてはどうか。
- 文化・学びを豊かにするため郷土資料館を設置し，映像やマンガ化で若い世代に，興味を持ってもらってはどうか。また，空き家の状況を地図に表示してPRするとともに，空き家を利用した「移住体験」事業等を実施してはどうか。

【Ⅲ 交通・都市基盤を強化する】

<課題について>

- 公共交通が不便だからマイカーを利用，マイカーを使用するから公共交通が便利にならないというサイクルを断ち切る。

<提案・改善策について>

- 公共交通利用促進のために総合的な交通情報案内システムを構築してはどうか。
- 狭い道路での一方通行規制を増やし行き違いを無くしてはどうか。
- 狭い生活道路は人専用道，広い幹線道路は車専用道と道路を区別し安全で快適な道路空間として整備してはどうか。
- 特区制度を活用した山科版ウーバーを作ってはどうか。具体的には，マイカーを持っている住民同士で助け合える仕組みを作ってみる。
- マイカーに乗らなくて済む住環境を整えるため，山すそエリアにロープウェイ等を設置してはどうか。
- 水害が心配されるような地域に「砂ステーション」を設置し，遠方に出かけなくても土嚢を利用できるような整備を行ってはどうか。

【Ⅳ－① 保健・福祉・子育て支援（子育て・青少年）】

<課題について>

- 保育所の立地や利便性の問題と保育所以外の地域内での子育て支援の場所の必要性。
- 子育て支援の事業等に来ない層等に対してどのようなアプローチをするか。

<提案・改善策について>

- 空き家を子育て支援事業者等が居場所として利用できるようにしてはどうか。また、支援する側の体制を充実させて、保育所以外の地域内での子育て支援の場を増やし、“四ノ宮祭り”的な事業を行ってはどうか。

【Ⅳ－② 保健・福祉・子育て支援（障害・高齢・健康・人権）】

<課題について>

- 一人暮らしの高齢者に対する多様な施策。
- 子どもと高齢者とのスポーツ交流。
- 災害時における地域の障がい者の把握。

<提案・改善策について>

- 町内レベルで空き家等を活用し、一人暮らしになる前から、既に実施しているすこやか学級（居場所事業）への参加を促してはどうか。
- 親子（祖父母と孫）グランドゴルフ等を実施することにより、高齢者は子どもを見守り、子どもは高齢者を見守るというような取り組みを増やしてはどうか。
- 有事のために地域住民の障害の有無等を町内で細かく把握することにより地域と障がい者の交流の場を増やしてはどうか。

【Ⅴ 地域のつながりを強める】

＜課題について＞

- 自治会の高齢化と担い手不足。
- 若い世代の地域活動への参加者数が少ない。
- 災害時や犯罪防止に備え啓発しても適切な行動につながらない。

＜提案・改善策について＞

- 子どもが小さい頃は地域との接点があるが、中高生になると接点が少なくなっているため、町内行事など地域活動への参加機会の創出を行ってはどうか。
- 中高生を対象としたアンケート等を実施し、中高生が楽しむことができる場や希望を聞いて、町内行事等に参加を促し、地域の将来の担い手として導いていけばどうか。
- 自治会の仕事や事業のスクラップアンドビルドを行い、若い世代が自治会活動に参加しやすくし、役員等への担い手と導いていけばどうか。